

研究課題

# ICT活用による「イメージを表現する力」の育成

副題

～和太鼓・ソーランを通して日本の伝統文化を学び、発信する実践の一例～

学校名

カタール国ドーハ日本人学校

所在地

Area No.51, Street No.1111, Building No.17, Doha, QATAR

ホームページ  
アドレス

<http://jsdqatar.com/>

## 1. 研究の背景

本校は、カタールのドーハ市内にある在外教育施設（日本人学校）であり、開校6年目を迎える新設校である。児童生徒数は49名で、小学部と中学部が併設されている。

本校では、2年前より主に総合的な学習の時間の中で、和太鼓とソーランの指導をしており、日本の伝統文化に対する教育を推進している。和太鼓とソーランは、学習発表会や日本人会レクリエーション、カタールの現地校との交流会において発表し、その様子が地元の新聞社にも記事が掲載されたことがある。本校の特色ある教育活動としての和太鼓とソーランは、日本の伝統文化を学ぶ自文化理解の取組でもあり、他方では、外国の児童と交流する中で、日本の伝統文化を発信し、伝え合う異文化理解への取組にもつながっている。

しかし、和太鼓やソーランの表現力については課題がある。現在は、教師の言われた通りに表現するだけで、自分たちで曲のイメージを豊かにし、そのイメージを形にして表わすことができていない。子どもたちが自ら曲想をもち、表現を考え、探究する中で、表現力をさらに磨かせたい。

## 2. 研究の目標

- ・ ICT活用により、課題を共有したり伝えたりすることができ、和太鼓やソーランの曲に対するイメージをもって、イメージを形にして表現することができる。
- ・ ICT活用により、児童生徒が自分自身の技能をチェックすることができ、和太鼓、ソーランの技能向上を図る。
- ・ 和太鼓、ソーランの発表を通して、日本文化への理解を深め、日本人としての誇りをもつことができる。
- ・ ICTを各教科でも活用することで、児童生徒の思考力・表現力を高める。

## 3. 研究の方法

### (1) ICTを活用して

和太鼓とソーランは、音楽、体育、総合、学活を使って指導する。指導に当って、ICTを活用する。また、それ以外の活用を考え、各教科の中でも、思考力・表現力を高めるためにICTを活用する。ICTの活用は、教員だけでなく児童生徒自身も活用できるようにする。

## (2) 発表を通して

和太鼓とソーランの発表する機会を多く設ける。特に学校間交流で発表し、活動の振り返りをするこ  
によって、自文化理解を深める。

## 4. 研究の内容・経過

### (1) 練習の様子(4月から)

本校では、低学年、中学年、高学年、中学部と四つのグループに分かれて、和太鼓の活動に取り組んでいる。それぞれのグループごとに曲があり、4曲の演奏が可能である。

練習時には、必ず iPad を用いて演奏の様子を撮影し、大型テレビにその映像を映し出して、動きのチェックをしている。ICTを活用した実践を継続することで、和太鼓の技能アップを目指した。



【可動式大型テレビで動きの確認】

### (2) 研修会の様子(5月, 6月)

#### 研修の内容

- 1 本校の課題点
- 2 ICTとそれに関する最近の動向
- 3 実践の実際
- 4 情報活用能力の育成
- 5 情報モラル
- 6 使用方法

校内研究計画を立て、5月と6月にそれぞれICTに関する研修会を予定した。

特に、今年度は新たに二名の派遣者が赴任したため、これまでの本校でのICT活用の取組を紹介したり、具体的な実践例を挙げながら、即実践に生かせるような研修会を設けた。

教員のみならず児童生徒がICTを活用するための方法についても、話し合うことができた。

【研修会で使ったPPT資料】

### (3) インター校との交流(6月, 9月, 12月, 1月)



【一緒にリズム打ち】



【スカイプで伝える】

本校では、学校間交流に力を入れている。交流会を多く設けることによって、英語やアラビア語を使う機会を増やしている。そしてまた、交流会を開催する時には、和太鼓の発表を必ず組み込むようにしている。

6月にはカタールのインター校が本校を訪れ交流会を開催した。まず、お互いに英語で自己紹介や学校紹介をした。次に、和太鼓を発表した。そしてその後、インター校の児童と一緒に和太鼓のリズム打ちをして楽しんだ。

二回目の交流会では、スカイプを使って間接的に交流をした。英語を使って日本文化について紹介したり、日本文化について質問を受けたりした。英語を使って会話することに苦手意識をもっている児童もいたが、話をするうちに知っている単語を使って話してみたいという態度が見られるようになった。交流の回数は、合計4回実施した。

#### (4) 学習発表会(11月)



【高学年による和太鼓演奏】



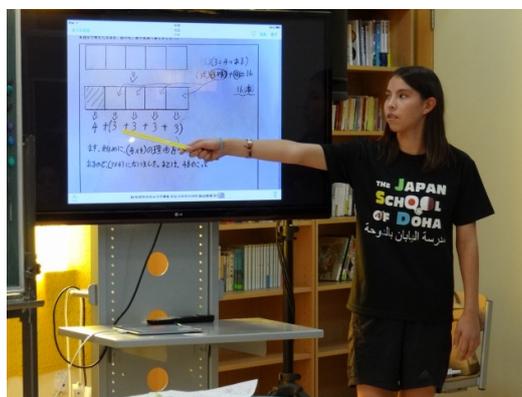
【中学年による和太鼓演奏】

学習発表会では、これまでの練習の成果を発揮し、低学年、中学年、高学年、中学部の四つのグループがすべて和太鼓の発表を行った。学習発表会には、在カタール日本国大使や日本人会の方々、保護者など、多くの方に参会していただいた。

#### (5) 自主公開授業研究発表会(12月)



【カタール人の教員が参観】



【思考したことを表現する】



【iPadとテレビをつないで】



【オープニングセレモニー】

12月11日に自主公開授業研究発表会を開催した。本校は再開校して以来、6年目を迎え、これを機にこれまでの研究の成果を発表することを目的とした。

研究発表会には、文部科学省の視学官、全国海外子女研究協議会会長、東京学芸大学、カタール大学の教授、カタールの現地校の教員が参会し、約70名を越える盛大な会となった。

公開授業はすべて算数の授業を行い、それぞれの授業でICTを活用した実践を公開した。校内研修で学んだことを生かし、児童生徒の思考を表現するためにICTを用いた授業を計画した。会に先立って、オープニングセレモニーでは、中学年による和太鼓の演奏を披露した。

## (6)運動会(1月)



【これまでの練習を生かして】

本校では、和太鼓の活動に取り組むだけでなく、ソーランにも取り組んでいる。ソーランは、和太鼓と同様にiPadで練習の様子を撮影し、踊りのフォームを確認しながら練習をした。運動会では、最後の演目としてソーランを発表し、日本人会や保護者の方々の前で立派な踊りを発表することができた。ソーランも、全校児童生徒全員が取り組む活動であるの一つである。

## (7)UAEのドバイ日本人学校との交流会(6月, 10月, 2月)

学校間交流は、先のインター校以外にも、日本人学校同士でも行っている。今年度はUAEのドバイ日本人学校と学校間交流を行った。本校の修学旅行先はUAEのドバイであり、修学旅行の行程の一つとして、ドバイ日本人学校の児童生徒と交流することになっている。

ドバイ日本人学校とは合計3回交流会を設け、スカイプを使った交流、直接出会ってコミュニケーションを図る交流、そしてまたスカイプを使った交流と、定期的に交流をすることで親睦を深めることができた。



【大型テレビ2台を使って】



【中学部による和太鼓演奏】

#### (8) カタール現地校との交流会(2月)



【アラビア語であいさつ】



【日本の伝統文化を伝える】

カタールの現地校との交流会では、簡単なアラビア語を使って自己紹介をし合った。他にも、アラビア語でカタール国歌を歌ったり、踊りを踊ったりしながら、アラビア語を使ったコミュニケーションを図った。その後、和太鼓の発表を行い、日本の伝統文化を伝えた。カタールの子どもたちは、日本の文化といえばアニメくらいしか知らず、和太鼓の演奏を聴いてその迫力に驚くと共に感動していた。そうした反応を知ることによって、本校の児童生徒は日本の伝統文化のよさを再認識することができた。

#### 5. 研究の成果

ICTを活用した実践後、児童生徒にアンケートを実施した。その結果、交流を通して日本の文化のよさを知ることができたと回答した児童は、9割を超えていることが分かった（「Aとてもできる、Bまあまあできる」の回答が90%を越えた項目は青色で表示する）。

したがって、和太鼓やソーランの活動を通して、日本の文化を学び、発信することによって、本校の児童生徒は日本の文化のよさを再認識することができたと考える。

また、他教科の学習でもICTを活用したことによって、教員のみならず、児童生徒の情報活用能力を高めることができたのも、本実践の成果と考える。

## 学校全体

番号	アンケート項目	Aとてもできる	Bまあまあできる	Cあまりできない	Dできない
1	Web交流で、他の学校の子といろいろなことを伝え合うのは楽しいですか。	29	10	0	0
2	他の学校の子と直接会って交流するのは楽しいですか。	32	6	1	0
3	アラブの学校やインター校と交流をして、相手のことを知ることができましたか。	20	13	4	2
4	交流を通して、日本の文化の良さを知ることができましたか。	28	9	0	2
5	交流をもっとしてみたいですか。	31	7	1	0

### 6. 今後の課題・展望

ICTを活用した和太鼓，ソーランの活動を通して，上記のような成果が見られた。しかしその一方で，「表現する」力の育成にのみ力点を置いたため，日本の文化を広く捉える視点に欠け，他の教科（たとえば社会科）と関連付けて学習することが十分ではなかった。今後は，和太鼓やソーランの由来や他の文化とのつながりなどを意識して学習を進めていきたい。

### 7. おわりに

本校は再開校して以来，まだ6年目である。私が研究主任として3年前に赴任したときには，校内のICTの環境は十分に整備されていなかった。たとえば，児童生徒一台当たりのPC保有率は，約5人であった。この三年間で少しずつPC等のICTを整備してきたが，特に今年度，パナソニック教育財団の助成を幸いにも受けることができたため，本校のICTの環境整備が飛躍的に進んだ。現在では，児童生徒一人当たりのPC保有率を3.2人までにすることができた。

最後になりましたが，パナソニック教育財団の遠山理事長をはじめ，関係者の方々に深く感謝申し上げます。